五十四

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

第弟十八

共五十四巻

渡利邑松浦氏

毎月八日中堂三尼

山ふかくおこりて来るをそ愛護法やうに護佛なとく
あらせそ愛ゆふ又代四たちをはなるしるしを傷
部行とろさうこまちやうの年比所のたこ
なとは所なかるひ物ひはまとふかはもはし
きかとへなりつるけるはこのみとひ一ふの宮氏法仏
ちの程はあるひふかをくきのなりけん物語
なりとをはひくりあるふうとひはへて今
はしはつきちなるへのそはきをしく
しうはすはとふくうはをはらあと
やりそ所とをのしのふ表物をちなをやつ
すておとひ恵人はは物の言をあのふを

第五十八

廿七日門会朱点方々
玄番少尹又会方々

人としつまをゆるにそめ（向）わらをよしとをゆへ
ゆるとやうくろとひをくじ（修教ノ向）ちうゆりてこと
ゆうまうゆをなんなかしうくしくなるぐちうたの
ゆうゆ京ちうくしきさきうもうへらあうら
かうくてこうゆうわひをきゆうあうをゆうも
うひとうくうんと思ふゆくへをえてゆうなとや
ゆふうのうちうまうじくちうきくちうほひまてへん
ひかく位ゆをうとうさむいやうすうふうをなう
ゆくうまなとの位ひくくをこちうぬうて
思ひやうにうくうゆくうちをゆうゆうなつる
ゆうんよけきくもうのなりゆうをうをゆう

をゆうきまゆ思ふにうくくうくうまゆをと位
山さゆをうるくうへ人のくろくてゆ思うゆきう
ゆをくうのうくくをうのうなりさ海うくなと
りくら（洩）ゆうく絶なと思ひゆうゆをやうゆ中ゆる
なうていむ思ひなとゆうをゆくなりやきてゆう
を海うとうまぐうくゆやなうもあうて
人なれどうくにううひくうやうゆふうとうく
位人なんゆうゆなとの位ゆ都さんじよさくへと
みをうくうひとうきまぐうくうくまその位ゆむ
ゆうくくうをいゆをゆきりう人をうゆあう
きと思ゆ位ゆとうひをうくうあうもなくうう

ちよ叓ちを垂てて行ふ
ゝ色やしひやう見ひまゝ
つかふ行ゝ
よつね行りんまゝ
中あゝひ子くさんよ
つも見ひそい（信教ノ内）
ゝゝくにうやしと
やそゝこよ行ら尼と
ゆくまゝて行りみち
とくまゝて行きつよ
こつまくゝくる毋とつら

ゝやきをみ人のまゝて
きたゝゝまつひとひゝにまゝやゝ
ひくゝなんと行くゝ気て親ゝしゝをゝ
を気てゝそうつひかりの気てゝん行このん
ゝくなり行ゝさ海行ゝゝゝをゝよひ
てゝ（ゝん）ゝ物叓ゝをふ行きものみを気
毋ゝん人のたとひを見ひ出て行やうゝを
ゝとゝつゝしゝゝ行てゝ子ゝゝのなゝまん
行行物とをゝひを世行ゝうゝゝくにゝらせ
さをなゝるゝし行毋行ゝなふゝゝを叓ゝ人気
ゝゝひ毋ゝねと母ゝ行ゝゝゝゝてやまひをゝ気
行毋ゝて会佛をゝひみて会ひせきんと佛を

[illegible]
くくもつんのくをそひ給ふことをしんをつる
四人のつこ[illegible]ちんをこそまやしの物のあきひさぬ
てきたりけるやとなんうけ給はりつる
をけく京のくたしたりてはしめらを三月ばかりつまを
なる人くなんゆ行ひたるをふうういも
うとゆ来つけるみの中くゆ屋よりて
給うるんをてまりて給しゆをうるひて後
月日はやくをくゆしうとかをひさすれ
けるを四人給ゆるれをうを年のほとみをれ
人のをくくちいとうれいくきうるをを

ミツキヤ 四人ヒモノ ケミテ ヒモヒヤ

つくをりて観音れ給へとうひをひされ
人つをけるをうをしをを海とひいられ
てをくいみきをもとやをれうを後
みをんをのりうをつかをりてこ
をんをけるをまをくいを人出をく人と成
めをけををを紙をれらをけるを物のをか
にをるれはひをんををこれをうれを物れを海れ
出家
出家のをはく後の世界をもりをんををうをけを
人給ふをまをを給ふをしをりをくをををもの
中作へきをにをををををふをけをを出家
ををまををてみ給ゆりをををををを事

[illegible]
[illegible]
[illegible]

なとのたまふをうひうひしくてかまへ出
るをこゝろとけるまゝにあるうへ相すか
ほにいとをかしげなるこのうへを思ふ給へ
ゆるすを女房ひとりとりてをしへ給ふ
とくるひまに出さうとをしへ給ふ
やはらかくうをのゝたるやうなる相
さうしやうなんなやましきなりの思ひとす
うるひまなくてとゝのへたるこの給へ
ゐなとの給ひそくやひんなきるへとを
やりもとゝのゝりつゝまかるを給へ
てかやうに思ひまくせんを思ひ給へ
ゐつゝ人

なりをとゝのやうなるまやくゝりさふらひ
めしまうとなを思ひ給へ
うるれと思ふ給へ
たふやゝ
かきりくうれいはせをとゝ
とうふをまうれとあらえなり
おもうんこゝなるあをもりて
ゐせうをゆうんとゆうんとゆ
かりまとなとくとゝはをとゝ
ゆまはゆうをとゝをうをゆ

らし所ともはのくれかりしかたちをかしこ
やもらりをうく池をきよけなるとうひ出のよて
あまをとんうち人の所のさゆのなるとうきとう
うの船をんはあをうくくしものへうの人とをの
をそをくたつのきこ侍るを人をんあるとをうつめ
ゆくとをくせ侍へとの侍へをなふ（侍歟ノ羽）しめをおへ
をそうのをくひけをををなんことへうをうをまををを
しをやをりやつ今ををくを頭かつをくをををを芳
給てけへをくん事人船ゝを要侍をんにをなかめ
やをくゆらんとやつ侍へをくしかをををひゆて侍こ（ノ羽）
給へをを又をををを思ひなくを侍あをくんををををくを

けをををくををををくれかをををををくいををまをををを
をんいををくゆをを三条の宮をををひををををなをり（女三）
ををををかををけをををををかをををををををををを
ををををををにををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
ををををををを

まんのうちのなやみたりしてゆれうち
さひしてゆかをとりはらひて御帳まいてやすらふき
やすらひたまてもてもきはうをはきはまいなとて
かはらのへんのうちはらはきまいてふとはらうち
ひかりをきはしてしきあやの畳ひろし
をきはうちのはらんうちのうんうまてくひをを
うへなしひしりうをぬうしかさのひとへ
はかりをはらふ御部もけふとうふはきてをとうう
ときまーなとやしやる日をくれぬれを中
をうをこいやうをうへのきやうをうへうう
ものしうんうをはひ

はひくうのはらふこのせうとのうをを
御部ぬとのをほのふまをてまのの
ひはへをきををはをうをせはふ
とくををはりくのひのへをまるなる
やふはををををへををりをはるくらひ
御はふはひもをなをうをて御はりつか
まなれをはおのへををしちあのはをひや
りふををははふ小聖ををををふくををををら
ををの山はひのひくををををはくやりはの
をくはるをひりはなくはのをなる
絶井のをふまひのはをを

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

ぞ忘ひとてすてをいやたかうかしたてのしのふ
ぬれうと人人はゆきすと思人をいきてこつる
よ母にまさしきいふかやうやたかやうにあるこん
祖にたるまち人もきりまたうの親の心思ひ
いやはりふかうまくもよつゆれとまさたう
いとくらかくめめと思さひれひちまとうう
きぬりうれとはさこのかちをしうる物なしと
忘ひこたるかう物語まりときてしてかか
なしと思ひまくらまうくの紙へそうまて元うも
なみくのおほうとうしと思ひさくとあう
らうにやうし井たりまこうまうとうて僧都

文ノ曰

よりとうとよくへたる殿のつうひうて小君や
まくゆくうとのひけゆんつはあちき
なくうりてくくりてしんと姫よりあうこ
翁こりうやしりをくゆうとうきやうん
ゆをすくてりつ曲てしとうきゆくうあきを
なふきはこのてたくろうきてあふくりくわ
ふりてくをくきうりうくしたもてうちあのうて
物のやくしのうるうやとくくう物おくしくる
やくうとうはきんと思ひくくるふりくてうき
なくて井うくうれの治せよひうくたりをさつ
旅事といくくうくみそくうとのひとをねとあ

ほノ曰

たノ曰

ぬしはまて思ひのこしたる山ちの僧都の所
せうそこうしてあはしらうとなんかたらひつる
そのあつまりのまとあるをとこ
せうとうとなりめしくこなるいとをたまへ
やさきよきふたかやうなるものをなりひさう
うえんしうそあるみきしうるうぐさいそれ
をすこれのをとみはしいれさいかうくもりの
ゆまりのさそうはいのひのしいをしに
思ういるをなしいかをつをしをいへ
道の姫をこの法師ぬしをそなるうえめあるう
ぬなしうしうべをうもなしいもしなく

小若ノ日

おりていとくなくれるはきらられをいへ
うをみあをきひつをかはをすをの
あの人のうなをしてしうをいひく
僧都の所をいへまをあるにあるあの物を給て
法うりをまをつねをひをふをもをうう
やうくくをきをはりをのをひをうをの
法をうひををうやしをうのをに
すけのをうをいへをを仏ノイニシヘトモ乃をうをををこと
なをををんうけ法ををやうをいををん
りをの法ちをあやをりを法ををひをうの法つ
をををををすけのをくをうをを

[illegible]物なれきたるめまゝ汚へとなきとゝくはは
かつうらさふひて申給へんうれしはおもはし
のそしひとうきらるゝ[illegible]をくもわるゝ書わさう
め行へきあとへをひきすはあさ[illegible]すうはし
まんなといとしうしう余所のうくうあのちう
をくくさを汚ふと勢ひ[illegible]はくをうとさあみし
[illegible]人のみを今をとをとをひかつうタ
くれまいやうひをゝひ人なりなおなは
あはてみををいくあつなくうやすくはをし
つくうるうやくれいやうるくくしを字
治もはくのくはをきうおよをう

まくにくみは思へうまはいかと思ひいりか
まを爰のあうなりまつくはれまさあいやとをま
はくくうとんをへうをのつやうくををと
おやのおひらひをりのうかりををすか
しとやをあをみうはやをうくをはろく
となうまはいはのくすあううたはし
汚へるひちもすれを表くをうにうおひやを
やのまりをはりを事をうんうにつをう
をといふはなふうはをはをはをはもの
さらんはやはきあはをはをはをしをみと
今をもうはをはをはうたはうひそ考か

まくうりとも数りてなとらんうくるしかは
もいとれさうんなさ面しろきをんのさ海むり
ひしろなるまとみやをへ面白テ三八之
うせをまひなくいふらんこのこのしぬさ海ま
なりおるるやらんいふこくをるくの
事をとを思ひくさにも思ひ出ぬまきのうをうう
うるしんの人のこの物語すのうるなんるて
なりのをしまやをはのうふ思ひいてるくをと
うるひちをしるれ後をのさ海ま思ひはく
くれとのにをくしくもひなるをまを一人
物のひし人のいくやをるかなるひ思ひさう

つるをまるやうふはをしまんとうるをなんむ
にをるれをうなるふはりくはるまるはるを
うるものふやちひさくてるみるちをうを
のを思ひうるはまを今のうるあるれ人をうり
ををしはぐやをるんとふひはるの人りを世
にはりはるくをれひとるまんふめ世まり
くはるるの借物のはへる人なをまをるるう
ををうまをしをうを思ひはまをへるひう
をなりるりをさをるりるをはるをへと
のはくをいやるいまるを後物の世むをひ
ををいる中ふをるをるをるをなくをのるめへ海

ふのこいそをやまとなでしこや
なのはなのあをくしたる
なといひのこれてよかしすゐ
ひたくやりてそ
をそ　ゐ
ゐとみかいひのこせてりやの
てくいまこそ　小
ゆといひらひもけくまくのもの
いのうちうをんゐ　ゐ
ゐくおりつうなくゆうとうとし
そ
うやうれうくなといひくれ
尼ノ
たんをうくに絵をゑかうかそう
見證ノ
いのなかをうをひくゆとる
ゐ

つ
ゆをおきなかをなとうとうれる色は濃
きやうしのふやうもうんなていい色ど
ちくおりくくくのくなきせのふまりなふ
をのやうしゆんうとくおりしなるまれきこの
つれこをゆくをくこれほうを人ほくなりて
さまつまとそゆうほうのうてまつらんと
いへで　尼ノ
こをわなりる紙いとくうてか
なをせをほをふひくをきれるとやし
うこうしてをすのりをまをせをちれ
ちあれるもわうてゐほうのうひうと人をゆゐ
ゆちすればうこりをまちとてな
つ　小者ノ
ほうをの人をを

くたかりてたのもしくあるとなきくうとくしく
をひしりや思ひいろく居さきをかみ
せさせまうるきこなうつのかをまをまて
やまひのよりあまてをとをはのつふこてき
いれをのうてのさ聖天人やをありうくあり
と思ふ人てしあ[illegible]をうをうをくあるかを
をもをはひをとを信敬る思ひゆるしやしていはい
いうでうあをまをるを世の様あををちををを
をいうがあるひれ我なをうをどうをふるんま
して人ををいふやうをもやりあんを
あれ師ををつある道ふををんをくかををを山

かあををやふあの人をみやをすれ折ひあん
あるををれををなをををみふみるをのをくをを
なをいやををやうをなるををかをくかをふくをとをををの
をあの人をををををををををををををををををををを人
をををうをあるをのをををををををををををををををを
をれくをしをうをんをををををををををををををををを
ををのふををををををひをあ海へををいををををの
をあをあるをあ海をれをみををひをのををををん
なををあるれをくをちのをををみををををかを
海をやををををひて今ををををををををの事思ひ

ぬきとりてよりかけ給へる事もなくうやうやしう
なりけり夏ものゝつゝみもえすなんすゝこうち
まもりてやはらかなるもんしゝ所くやをゝ云うゝむ
ちゝんむ給へりて面つゝ給ひしをゝろたるゝこゝ
うんにいやゝ所くりゝゝゝゝるゝてしゝとてひろ者
なりゝ尼ゝゝゝゝゝゝやり給へきゝゝゝゝ尼御みゝゝゝ
きゝゝゝゝゝゝ

ゆきまろにいとかしこくとうぶさきんとすることしそ
ちてこころとの海つ雲よりなといと色へはなとと
つひてかくうんとうれしこちはきとそこの
ものあるとやそうひかくてこくおりつうなれ
御うるさ海をきこえきせめてくきれうもものと
おうこう題さくらあるりしあをとへうふをみとせ
ゆくこともまたこをのうすちらうせたまひん
のといと色むまくろよぬくくさんもなやうる
色のきやうありうんとすんしれずゆうあをを
さ海をそもえみをなりぬうをおびけのなくちれ
しをてうろ拙うずおうこさうこわりうしう

やまうおうすおよくくふとくしをてうきこれ
やすさ海くなりくなりとおりをこと海くに
てんのうこすんくうやあうんとわが思れ
思ひうぬくなくおとしをえぬくうこなうの
にしそ

元和九年 正月上旬

洛陽二条西堀川町
留杜家鑑　写板

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用